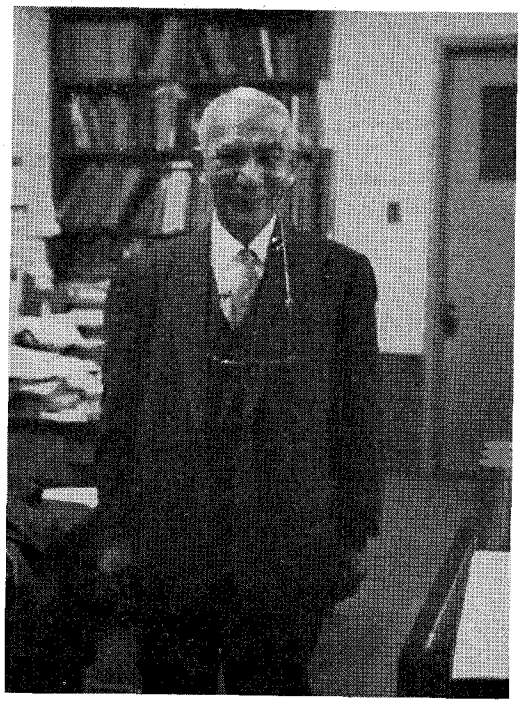
故秋山薫君の憶い出

鏑木政岐*

秋山薫君は，昨年暮あたりから健康が勝れず，1月10日頃から食物も受けつけなくなったので，1月20日過ぎ年本医科大学病院に入院し，鋭意加療中のところ昭和45日3月29日午前10時50分食道がんのため68年有余の生涯を終えられた．誠に痛惜の念に堪えない，病院では，肺結核のため食道が圧迫されて狭くなり，そのために食物を受けつけないということになっていたそうである．秋山君の病気を知って，私が彼を見舞ったのは2月上旬であるが，点滴のほかに，直接に胃袋に孔をあけ管を通して流動食を送りこむ療法が続けられていた．それにもかかわらず血色は普通であり，元気な口調で話をされておられた．それから2週間ほどたって彼を訪ねたとき，枕もとに酒やたばこがおいてあるのには驚いた．もともと彼は酒やたばこを愛好していたから無理もないことであるが，どちらもうまくないと語っておられた．このような状態にありながらいつも元気そうに見えたのは彼の体力と気力の旺盛さを示すものであろう．3月29日臨終の約30分前に自らマスクをとりのけ，傍にいた次男明胤君に「もうだめだ」とはっきりいわれ，やがて昏睡状態におちいっていかれたということである．秋山君は入院したときからすでに自分の病名をさとっていたに違いない．それにもかかわらず周囲の人たちにそんな素振りさえ見せなかった．彼は食道がんという大病にとりつかれながら何一つ苦痛を訴えず，また最後まで明瞭な意識を失なわず臨終さえ覚った境地は，日蓮宗に帰依して体得した敬虔な信仰によるものと思われる．

私たちが大正12年4月東大天文学科に入学した同級生のうち，先に浜田恒一君，窪川一雄君，秋吉利雄君，塚本裕四郎君を相次いで失ない，今また秋山君を失った結果，小野有一君（弘前市在住）と私だけとなった．とり残されてなんとなく淋しい気持がする．

大正15年4月以降3年間は東京帝国大学大学院に在学し，平山清次先生指導のもとに小惑星の運動に関する研究に従事された．昭和4年5月以後は理学部副手となって従来の研究を続けられたわけであるが，この間8年間にわたって帝国学士院，学術振興会から研究費補助を受けて数々の研究報告を発表された．たとえば，平山清次先生との共著で小惑星軌道要素の修正に関する研究報告を6篇，彼自身による小惑星の近日点および昇交点の



分布に関する研究，小惑星ヒルダの運動に関する研究，小惑星パラスの軌道修正および摂動に関する研究など数篇を発表された．特に小惑星ヒルダの摂動についての研究は，その後も根気よく続けられ，その研究結果をまとめて昭和37年2月東北大学より理学博士の学位を授与された．

天文学教室で第1回談話会の開かれたのは昭和3年11月17日で，その当時においては大体毎月1回の頻度で開かれた．この談話会の提唱者は秋山君であって，その後数年間談話会の世話掛をなされ，それが今日までも続いているのである．したがって秋山君は天文学教室談話会の生みの親として忘れられない人である．

秋山君は早く母親を亡くされ，さらに中学卒業の翌月父親も亡くされた．そのせいかどうかはわからないが，若いころから仏教への関心が強く，特に千葉市の片岡随喜先生に師事しておられた．片岡先生は別に寺院の住職ではなく，自ら日蓮宗についてさとりを開き，自宅でその教義を説いておられた方である．秋山君は片岡先生の薫陶を受け仏教に関する造詣が深かった．彼の長男好胤（電気試験所勤務），長女たか子（新日本製鉄和泉沢信氏

* 国学院大学教授，東大名誉教授

夫人)，次女汝女子（大東紡績脇本信氏夫人)，次男明胤(東京工業大学勤務)の命名はすべて片岡先生にお願いするほど，彼は片岡先生を心服していた．昭和 15 年に関口鯉吉先生から旅順高等学校に赴任しないかとの話のあったとき，秋山君は非常に迷いつづけていた．そこで山内恭彦君と私とが秋山君に同道して片岡先生の御指示を仰ぐこととなった．私どもの説明を聞いた後，片岡先生は即座に「秋山君行き給え」と決断され，旅順へ赴任することになったのである．

秋山君は，本年 4 月から大阪学院大学教授として新分野の開拓に大きな希望をもっておられた．その矢先に不幸にも病気で倒れられたのである．今や秋山君は積学院薫風天外居士（法名）として霊界に去られ，私どもと幽明界を異にすることとなった．心から秋山君の霊よ安かれと祈る次第である．

秋 山 薫 氏 略 歴

明	治 34 年 7 月	東京都中央区日本橋浜町秋山正作氏（開業医）の長男として出生
大	正 8 年 3 月	東京府立第一中学校卒業
大	正 11 年 3 月	第一高等学校理科乙類卒業
大	正 15 年 3 月	東京帝国大学理学部天文学科卒業
	自大正 15 年 4 月 至昭和 4 年 4 月	東京帝国大学大学院に在学
	自昭和 4 年 5 月 至昭和 15 年 3 月	東京帝国大学理学部副手
	自昭和 5 年 9 月 至昭和 15 年 3 月	法政大学予科教授
	自昭和 10 年 9 月 至昭和 15 年 3 月	東京高等師範学校講師
	自昭和 12 年 4 月 至昭和 15 年 3 月	陸地測量部修技所嘱託
	自昭和 15 年 4 月 至昭和 16 年 9 月	旅順高等学校教授
	自昭和 16 年 9 月 至昭和 26 年 3 月	日本医科大学予科教授
	自昭和 18 年 2 月 至昭和 20 年 9 月	水路部嘱託
	自昭和 19 年 6 月 至昭和 21 年 3 月	計数研究所嘱託
	自昭和 24 年 4 月 至昭和 45 年 3 月	法政大学教養学部教授
	自昭和 25 年 4 月 至昭和 45 年 3 月	青山学院大学講師
	自昭和 27 年 4 月 至昭和 45 年 3 月	中央大学講師
昭	和 37 年 2 月	理学博士（東北大学）

学会だより

天文学会春季年会開かれる

5 月 12 日から 15 日までの 4 日間，東京都文京区の文京区民センターで，今年度の春季年会が開かれた．講演数は 131 にもおよび，熱のこもった研究発表の連続であった．2 日目の講演終了後に天文学会総会があり，天体発見賞等の贈呈も行なわれた．表彰を受けられたのは次の諸氏である．

天体発見賞　藤 川 繁 久氏
　　多 胡 昭 彦氏
　　金 井 清 高氏
　　本 田 実氏

（なお本田実氏は 2 度にわたる発見が対象である）

功労賞　佐 藤 安 男氏
　　小 坂 浩 三氏
　　大 堂 卓氏
　　藤 川 繁 久氏

総会ではまた「運営検討委員会の答申について」の議題も提出された．3 月 22 日に運営検討委員会から理事長に提出された「日本天文学会の組織と運営の改善に関する答申」を，今後どのようにとり扱うかの問題である．

答申された定款改正案の問題点などがいろいろ出され，活発な討論がかわされた．結局，答申の理念をいかして学会の改革を実現するために，本年秋に定款改正を行なうことをめざすということが申合わされた．また理事会と運営検討委員会は必要な学会の実務面に関して話し合いをすることになった．(総会議事についてはいずれ理事会から月報を通じて発表になる)

国際シンポジウム“地球の回転運動”

（国際天文連合，国際測地学連合共催）

地球回転運動について天文観測の結果を天文学・地球物理学その他の関連分野から総合的に検討し，固体地球の解明と相俟って極運動および地球回転を精密に決定する方法を見出すことを目的として標記国際シンポジウムが，次のとおり開かれる予定です．

日時　昭和 46 年 5 月 9 日(日)から 5 月 15 日(土)まで
場所　盛岡グランドホテル
　　国内組織委員会事務局　緯度観測所

経 緯 度 研 究 会

上記シンポジウムに関連して，昭和 45 年度第 1 回経緯度研究会は，次のとおり開かれる予定です．

日時　6 月 29 日(月)，30 日(火)，7 月 1 日(水)の 3 日間
場所　福島県二本松市岳温泉市営国民宿舎しゃくなげ荘

国際シンポジウムおよび経緯度研究会に関する照会は